小・中学校再編にかかる地区意見交換会（鶴岡会場）

１ 日時　　令和８年１０月２６日（月）　１９時～２０時５分

２ 場所　　鶴岡小学校体育館

３ 参加者　１５人

４ 事務局　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	教育委員会として学校再編を進めるにあたり、最も重視されているのは「子どもの学習環境」と「地域に子どもが残り地域とともに育つこと」のどちらでしょうか。
事務局	佐伯市教育委員会では、目指す子ども像として「自分の考えを持ち、自分の言葉で表現できる子ども」および「自他を大切にし、力を合わせて活動する子ども」の 2 点を掲げております。小規模校であっても統合後の学校であっても、この理念を具現化し子どもたちにとって最善の学びの環境を整えることを最重要視しております。一方で、地域とのつながりを軽視しているわけでは決してございません。統合後におきましても、コミュニティ・スクールの取組や総合的な学習の時間における地域学習などを通じ、子どもたちと地域との絆を保ち続けることを目指してまいります。
参加者	コミュニティ・スクール（CS）と地域コミュニティ協議会は名称が類似しており、保護者や一般市民にとって違いが分かりにくいと感じます。今後、学校の統合・合併などのタイミングも含め、それぞれの役割や違いを整理し、誰にでも分かりやすく周知していく必要があると考えます。
事務局	「コミュニティ・スクール（地域とともにある学校づくり）」は学校が主導し、学校・家庭・地域が協働して教育活動を展開する仕組みです。一方、「地域コミュニティ協議会」は市役所のコミュニティ創生課が所管し、地域住民の皆様が主体となって地域づくりや学校・家庭との連携を進める組織です。これらを「地域教育コーディネーター」が橋渡しすることで連携を図っております。学校統合後におきましても、例えば先行して統合された蒲江地区において児童・生徒が旧校区へ出向いて学ぶ「ふるさと学習」が行われているように、地域と学校のつながりが途絶えないよう工夫してまいります。
参加者	中学校の統合において、周辺の小規模校から生徒が進学してきた場合、9 教

	科すべての専科教員の指導を受けてきた市街地中心部の生徒と、免許外指導や兼任教員のもとで学んできた生徒との間に、特に実技教科（音楽・美術・技術・家庭など）や情報分野で学力差や学習経験のギャップが生じるのではないかと懸念されます。開校前の準備段階を含め、この学力差や心理的不安に対してどのような対策を講じるお考えでしょうか。
事務局	小規模校において一部教科で免許外指導や兼任配置が生じていた実態については認識しております。学校規模が適正化されることで専門教科の教員配置が進むメリットがある一方、統合直後に生徒が学習面で戸惑いや心理的負担を感じないよう配慮が必要と考えております。統合前の段階から教員同士の研究・情報交換を進めるとともに、児童・生徒間の事前交流授業などを通じて専門的な学びに触れる機会を設けるなど、スムーズに統合先へ移行できるよう丁寧な手立てを講じてまいります。
事務局	平成 17 年の市町村合併以降、急激に児童・生徒が減少した旧町村（郡部）の学校を存続させるため、東雲・本匠・直川・宇目・大島において小中一貫教育を導入しました。小 1 からの英語教育や中学校教員の乗り入れ授業を行い、小規模校で生じやすい免許外指導の解消や技能教科（音楽など）の専門指導を実現し、県内トップクラスの学力向上を達成しました。一定の児童・生徒数を維持できたものの、教育委員会の取組だけでは若い子育て世帯を地域へ定着させ続けることには限界がありました。小規模校において再び課題となっている技能教科などの学習・学力格差を根本的に解消し、教育環境を改善するため、学校規模を一定規模まで適正化する新たな施策へと舵を切りました。
参加者	令和 12 年度の中学校統合に向けて、小規模校の生徒が市街地の学校へ進学した際に学力差や学習経験の違いによる不利益や孤立が生じないよう、開校前の学年（中 1・中 2 等）に対して技術や美術などの専科教員を兼任配置したり、市独自で学力補充の支援を行ったりするなど、予算を投じてでも十分な格差是正措置を講じていただきたいです。
参加者	小学校や中学校における特別支援学級について、支援を要する児童・生徒の人数は把握されているのでしょうか。
事務局	佐伯市では「就学支援委員会」を年 2 回開催し、専門的な判定を踏まえて特別支援学級への在籍が適しているかどうかの確認を行っております。小学校

	から中学校への進学を含め、対象となる児童・生徒の状況につきましては、毎年 10 月から 11 月頃を目安に次年度の人数や状況を把握しております。特別支援学級の増設・新設につきましては大分県教育委員会の決定事項となります。
参加者	別の校区から聞きに来ました。子どもがスクールバスで通学をしていますが、上野小学校へ統合された場合、バスの出発時刻が現在（7 時 35 分）よりもさらに早まるのでしょうか。また、保護者の送迎が必要になる可能性はあるのでしょうか。あわせて、バス運行の安全性や運転手の運転マナー、児童・生徒の乗車マナーについて、学校や教育委員会もより深く関与していただきたいです。
事務局	上野小学校への統合後も、基本的にはスクールバスや路線バス等による通学支援を継続する方針です。通学距離が長くなる地域におきましては、現在よりも始発時刻が早まる可能性はございます。また、通学バスの運行状況や運転マナー、児童・生徒の乗車指導につきましては、学校（教頭等）を通じて教育委員会へ情報をお寄せいただければ、運行事業者と協議し改善を図ってまいります。
参加者	中学校の部活動について、学校統合によって生徒数が増加した場合、現在休止や廃部となっている部活動が復活したり、新しい部活動が創設されたりする可能性はあるのでしょうか。
事務局	中学校の部活動につきましては、休日の活動は地域クラブ活動への移行（地域移行）が進められておりますが、平日の部活動につきましては学校単位の教育活動として存続しております。統合により学校規模が大きくなった場合、生徒数の増加に伴って平日における部活動の選択肢が増えたり、過去に休止となった部活動が再開されたりする可能性は十分にございます。

（２）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	将来的な学校統合はやむを得ないと考えておりますが、通学路の安全確保に強い不安を抱いております。自宅周辺には横断歩道がなく、一番近い横断歩道まで約 500～600m 迂回しなければ安全に道路を渡れない状況です。地元から警察へ横断歩道の新設要望を長年出しているものの、「橋の前後は設置できない」との回答で設置が叶っていません。現在も中学生が車の行き交う幹線道路を危険な形で横断して登下校しており、特に冬場の薄暗い時間帯や橋から下りてくる車との事故が非常に心配です。子どもたちの命を守るためにも、関係部署と連携のうえ、安全な通学経路の確保について地域や保護者と丁寧に協議を進めていただきたいです。
事務局	教育委員会といたしましては、警察や道路管理者等と連携した通学路安全点検を毎年実施しております。統合に伴う具体的な通学路設定につきましては、各校区での説明や通学路検討委員会等の場において地域・保護者の皆様と個別に丁寧な協議を重ねてまいります。
参加者	私自身、学校統合の経験から、子どもたちは急激な環境変化に対して強い不安を抱きます。当時、学校に常駐していた「心の相談員」に気軽に相談できたことが大きな支えとなりました。統合を進めるにあたっては、養護教諭の先生方への相談だけでなく、各校に子どもが気軽に立ち寄って悩みを話せる相談員などの専門スタッフや相談スペースの確保についてもご配慮をお願いいたします。
参加者	小規模な環境で手厚く育てられてきた子どもたちが、統合によって急に大人数の集団に入った際、気後れして輪に入れなかったり、孤立やいじめ等の対象になったりしないか非常に心配です。学校再編を進めるにあたっては、そうした子どもたちの心のケアや集団への馴染みやすさを最優先に考えた支援を行っていただきたいです。